

# エンカウンター (ENCOUNTER)

## 第 154号

平成27年2月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

「小西芳之助金曜会・同志会日誌語録」より (3)

一つの教えを選んで実行してみよ

「御霊の果は愛・喜悅・平和・仁慈・善良・忠信・柔和・節制なり。斯かるものを禁ずる律法はあらず」(ガラテヤ書5章22～23)だ。それがなければ聖霊でない。会堂を建てても、聖書を知っても助けになるかも知れんが、人は救わない。信仰をやれ。コロンブスのやったように、一つの教えを選んで実行して見よ。特に復活のいのち、これを信じて生きてみよ。神によって生き、死しては神の国へ帰ることができるということ。そこにどんな人生が展開するか、やって見よ。ウソか本当か、そんな頭で考えて分かるものか。パウロなんて学問は大したものじゃないと思う。

私の方が——これでも高文を通ったのだよ——よく知っている。だがパウロの信仰はすごい。人類の指導者だ。ペテロにしても

ordinary man (普通の人) だ。 man of modest ability (普通の才能の人) だ。それでいいんだ。一つ実行してみよ。キリスト自身「自分は神から来た。そして神へ帰るのだ」という人生観をもってそれを実行したんだ。それがイエスの生涯だ。「我を信ずる者は我がなす業をなさん」と彼も言っているではないか。信仰で生きよ。君らの人生は輝くよ。私は modest ability の人だ。人はいい年をして教師の試験など受けて 20 人かそこらの人を集めて何をやっ取るかという。しかし私はこの小教師たることを特権に思っている。一介の牧師として死にたい。それが念願だ。大学の勉強をしたまえ。なにも神学校へ行かんでもいい。しかしこれという聖書の教えを一つやってみよ。やるからには 5 年や 10 年ではダメだ。死ぬまでやれ。大胆に実行せよ。相当なものになると思う。神様が教えて下さるだろう。

(昭和 31 年 6 月 1 日 金曜会)

## 与えられた所を受け入れよ

〔東京〕都 500 年の展覧会に行った。昔の教科書が並んでいたが、小学校時代に使ったものもあって昔を思い出し、過ぎて来た 50 年を回想した。高校時代から牧師になりたいと思って居ったのが、10 年前道が開かれて、牧師になることが出来た。思うに自分の前に落ちてくるつとめを精一杯やっていたらそれでよいと思う。そして毎日曜には集まりに出て神の教えを受ける。自分の経験を言えばしたいことも他にあったが、目の前に置かれたことだけしてきた。そうして来たときにこうして自分の道が開けて来た。どうぞ諸君も難しいことを言わなくても、自分に与えられたことを一生懸命やったらいいと思う。

“時を生かせ”ということもパウロはもっと深い意味があって言ったんだろうが、私にはわかっただけでやって来た。就職にしても与えられた道として受け入れよ。何も大きな会社、立派な地位にかんでもよい。ただ与えられたところを受け入れる。そして自然に道が開かれてくる。自然に。そして自然に開けて来た道が一番幸福だ。何も無理をすることはない。

(昭和 31 年 10 月 5 日 金曜会)

## 与えられたことを真剣にやれ

私は今牧師のまねごとをさせてもらっているが、朝一時間半説教の準備をして後、散歩するが、実に王侯の如き感がする。外から見たのではわからないかもしれないが、幸福は内にある。自分はキリスト教の偉大な指導者が日本から出るような気がしてならない。我々は東洋の精神を理解する血があるのだと思う。キリスト教は、「西洋の宗教」ではない。これは同志会の責任だと思う。けれども何も難しいことではない。与えられたことをしていればよい。

内村鑑三は、“私は宇宙的第1人者である”と言った。彼はそれを偉ぶって言ったんじゃない。一人一人が他人にないものを神から与えられている。平凡なことでも日夜取っ組んでやったらよい。但し逃げたらいけない。そしたら道が開けてくる。

私は法律が嫌いだったが神からやれと言われたからやって居った。そしたら道が開けて来て好きなことが当たって来た。神の導きというものはよくわからなくてもよい。与えられたことを与えられたこととやって居たらよい。そういうことは年を取ってから分かってくるのだと思う。今50年を振り返って神の導きを思う。

(昭和31年10月5日 金曜日)

## 我がくびきは易く、我が荷は軽い

「我がくびきは易く、我が荷は軽ければなり」の聖句がだんだん好きになって来た。我々の年配になると実学が出てくる。全て己の道に沿って歩いて来る者は強い。宗教にしても然り。神の道に沿って生きよ。道に外れるな。我流を押しな、全てにおいて。

塚本先生の年頭の所感「パウロ、ルター、内村先生よりも年をとった。自分では若いつもりでも時代のずれを感じず。しかし天国の姿がいよいよはっきりして来た。大きい人よりは小さい人が高く偉く見えて来た。何よりもありがたいことは山の如くに仕事がある。そして満身の力を以って当たる元気を残して下さることだ。72年の生涯において今ほど神を信ずる幸福を感じたことはない。詩篇 92 篇—新しい年の祈りである。

(昭和 32 年 1 月 18 日 金曜会)

## 与えられたことを一生懸命やるように

どんな場所でもよいから与えられたことを一生懸命やるように。  
私は与えられた事は陰日向なくやって来た。手に負うた事は誠心誠  
意やる事が人生を知る事の鍵となる気がする。伝教大師は「一隅を  
照らす人」を作ることが目的であった。パウロは、「汝ら、低きにつ  
け」と言った。どんな場所でも、人類に貢献できるものだ。ペテロ  
は凡人であったが故に、神の導かれたのだ。

(昭和 32 年 2 月 8 日 金曜会)

## 辛抱して時間を投資せよ

聖書は信仰の専門家が書いたすごい書物だ。素人に分かるはずがない。脳の一部の intellect (理解力) だけをふりまわして「こんなツマラン」という人がいる。ちょっと損することをせなあかん。損する積りでやれ。初等教育をやるにも6年間毎日毎日やる。いわんや聖書は高級やで。簡単にわかるものやない。途中で止めたらいかん。辛抱して時間を投資せよ。時間を投資せずに得られるものはロクなものではないぞ。これが得られたら、与えてもらったら、ありがたい。幸いだ。

石館先生は感激屋だった。武者小路〔実篤〕の『幸福者』が出て、それに感激しておられた。富、名誉、業績いろいろあるが、それを得たからとて本当に感謝して、人のために生命を捨ててやったろうという精神は出て来ん。辛抱して3義務を守れ。利益のないところへ投資するつもりでやれ。

(昭和32年4月19日 金曜会 (署名式))

聖霊を受ける唯一の道は、信仰をもって「待つ」こと

復活日に教会で話したことだが、ルカ伝の最後の箇所、復活したイエスを十二使徒自身がこれを信じなかった。復活されたイエスが40日間復活体をもって使徒を導いた。「イエスが彼らの目を開いて聖書をわからせた」この40日にこそ真の福音がある。…

聖霊を受ける唯一の道は信仰をもって「待つ」ことである。待ったら必ず開かれる。イエスの聖霊下る時に開かれる。信じて待つ、わかるまでへばりついたらよい。大神学者必ずしも真の信者ではない。キリスト教は人の作った宗教ではない。神の聖霊の問題である。聖書だけ知る信者で一生を過ごしたい。神は万人を救うためにそんなに難しいことは書いていないと思う。キリストの復活まで、12使徒はどれほど長く感じたことか。しかし待った。我々は使徒と等しく待とう。

(昭和32年6月7日 金曜会)



## 社会の一隅を照らす人となれ

どうかこの同志会から本当にキリストを住み家とする人が多く出て欲しいと思う。決して“大”という字のつく人になってもらいたくはない。社会の一隅を照らす人となって頂きたい。人の言うあの人は偉いなんて言うことは大したことではない。年を取ると始めてこの様なことがはっきりと分かって来るものである。この様なものは

この世の一時的なものにすぎない。死にいたるまでそれぞれの立場でキリストを住み家とする人となってもらいたい。

内村鑑三さんが、日蓮について話したこと。日蓮という人は誰の援助も受けずに、鎌倉の松林に掘っ立て小屋を建て伝道をはじめたのである。今から 700 年前 1254 年のことである。その後罰を着せられて佐渡へ流されたが、5 年もの間死なずに生きながらえた。そこでやっと死刑が許されたのである。その頃になるとようやく世間の人から注目され始め、弟子も沢山出来たのであるが、ふっつりと伝道をやめて初めて伝道をはじめたと同じような掘っ立て小屋にすみ、瞑想にふけたのである。

(昭和 32 年 9 月 13 日 金曜日)

## 私も浄土真宗に大きな影響を受けた

私が今までに大きく影響を受けた人として内村鑑三、島村清吉の2人を挙げる事が出来る。島村先生は奈良県で中学の数学の教師をしておられた人で、亡くなられて今年〔1958年〕で33年目になる。私の家が浄土宗であった関係から、毎月1回島村先生の浄土宗に関する講義を聞いた。弟子18人が一緒になって島村先生に関して書き集めた「島村先生余芳」という本が残っている。

内村先生は、ある時宣教師に dedicate〔献呈〕した本の中で次のようなことを言っておられたことがある。「私は宗教の本質については宣教師に学ばず親鸞、日蓮、蓮如の3人から学んだ」確かに日本の仏教はある意味において非常にキリスト教的である。内村先生は仏教に関して「仏教は義によって許されることはない」というような点で、少しく日本の仏教を誤解された点があるように思うが。

私も浄土真宗に大きな影響を受けた。その内容について一寸述べれば、弥陀の48願のうち、18, 19, 20の3つが往生の願として中心的なものとなっている。

第18願は「念仏を行なう者は救われる」……信仰のみ。

第19願は善行を積んで浄土に行く……信仰なし、善行のみ。

第20願は念仏を行なう者はその善行により浄土に行く……信仰と善行。

親鸞はこの3つを信じた。その結果第20願により往生できることが分かり、唯信仰によってのみ往生することを悟った。仏教＝信仰＋善行。親鸞の言う「信仰のみ」の信仰は善行も含めた信仰であることを忘れてはならない。善行も信仰のうちなのであり、これをしりぞけるようなことをしてはいけない。仏教は神の救いの一つの段階と見ればよい。したがって私はカトリックを攻撃しない。また信仰はなくキリストを否定するが善行だけは行う人をも私は同志だと思う。極端な言い方かもしれないが。「神よ、私は何をなすべきか」とだけ言えば立派なものだ。

(昭和33年1月17日 金曜会)